



◆一月の歳時記◆

一月二十日は「玉の輿の日」



モルガンお雪

1月20日は「玉の輿の日」ってご存知でしょうか？この日は、祇園の芸妓であるお雪とアメリカの大富豪ジョージ・モルガンが結婚した1905年1月20日を記念して制定された記念日だそうです。

主人公のお雪は「日本のシンデレラ、モルガンお雪」として日本中で話題となりました。しかしその華々しい結婚の裏には恋人との破局など、決して世間が思うシンデレラストーリーではなかったようです。

モルガンお雪こと加藤雪は、京都の寺町に生まれ14歳で姉が経営する祇園の置屋で芸妓になります。お茶屋「小野亭」は、外国人専用のお店で格下として扱われていました。そこに現れたのが30歳のモルガンでした。お雪には当時、京都帝大の恋人（後に浪花銀行東京支店長）があり、幾度となく日本を訪れ求婚されるもモルガンを断り続けます。しかしその話題が世間に知られ恋人とも破局。モルガンを諦めさせるために、「日本映画界の父」牧野省三（俳優・津川雅彦の祖父）に相談。「莫大な身請け金を吹っ掛ければいい」と言われ、お雪はモルガンに4万円を要求します。当時のお金で京都の南座が買えたといいますが、モルガンはあっさりとお金を用意し、お雪はそのまま身請けされます。とはいってもお妾さんではなく本妻として迎えられたとあるので、よほど愛されていたのでしょうね。

横浜で結婚式を挙げ、その後ニューヨークに渡った二人ですが、社交界とモルガン一族の目は冷たく、日本に一時帰国するも「金に目がくらんだ女」と言われ、祖国日本も安住の地ではなかったようです。二人はパリに移り住みますが、お雪が34歳の時に夫は心臓麻痺で44歳という若さで亡くなっています。

その後のお雪の生涯は、最近の若者が夢見る「玉の輿婚」や「逆玉婚」などはスケールが違う事がわかります。お雪の晩年は京都の小家で最期を迎えています。彼女にとって「玉の輿」は真の幸福を与えてくれたのでしょうか・・・

高齢者のスマホ事情(中国)

最近、パストラル尼崎の皆さまもスマホデビューされる方が増えつつあるようですが、お隣の中国でも多くのシニア世代がスマホを使いこなしているようです。中国ではお買物もスマホで支払ったり、スマホで健康状態を報告しないと交通機関を利用できなかったり、孫の付き合い（ゲームなど）でもスマホは欠かせません。

でも最近、問題になっているのが、高齢者の「スマホ中毒」だそうで1日10時間以上が10万人にもなるのだとか。息子世代から「親がスマホ中毒になっている」「テレビばかり見るな！と叱っていた親が、スマホをプレゼントしたら1日中手放さなくなった」と悩みがインターネット上に掲載されるようになりました。汗

長時間のスマホ利用は、健康的にも弊害が出るといわれていますが、高齢者をターゲットにした詐欺事件なども危惧されています。パソコンを飛び越え、急にスマホを使いだした高齢者は依存症になりやすく、インターネットの世界にも警戒心がないのだとか。フムフム・・・それでも便利なスマホ「正しく恐れて」使いこなしたいですね。



今年はお出来ると願って！（アクト）

昨年のアクティビティを振り返ると、予定していた企画がコロナの影響でことごとく中止になるという前代未聞の年となりました。大盛況だった『灘校マジカル同好会』の来訪を最後に、大人数のイベントはNGとなり、N響コンサートや文化祭、また日帰り旅行なども中止や縮小を余儀なくされ、大正琴の皆様の晴れの場や、歓声響く麻雀同好会の活動も中止という、何ともやり切れない日々・・・

そんな中、三密対応の苦肉の企画（汗）「検定試験」「館内図書館」「アートに挑戦」「ボランティアに挑戦！」「くいだおれ」などを実施。また外出できない皆様に、少しでも季節感を感じて頂ければと、スタッフ達が手作りした作品でロビーを演出。その思いを汲んでか大勢の方がご参加下さり、ロビーに飾られた“秋のサンマ”や“月見団子”“古民家”に爆笑の渦が起きました。また逆に、季節や時事を見事に詠んだ、数々の俳句にスタッフが癒され、元気をもらった感謝の1年でもありました。中でも皆様が参加して下さった“ボタンアート”や“ドライフラワーの振袖”は、そのクオリティの高さに、作品の画像を見る者全員が驚嘆！外部の方からもお褒めの声をたくさん頂きました。

今年こそは、昨年、泣く泣くキャンセルした「シニア大学」や「シニア倶楽部」「日帰り旅行」などの実施や“京大の日本酒サークル”を講師に迎えての「利き酒会（仮名）」“法話”で日本一になったお坊さんの講義、また大盛況だった灘校マジカル同好会の再訪などの実現とともに、皆様の輝く笑顔がもっともっと見られます様に！